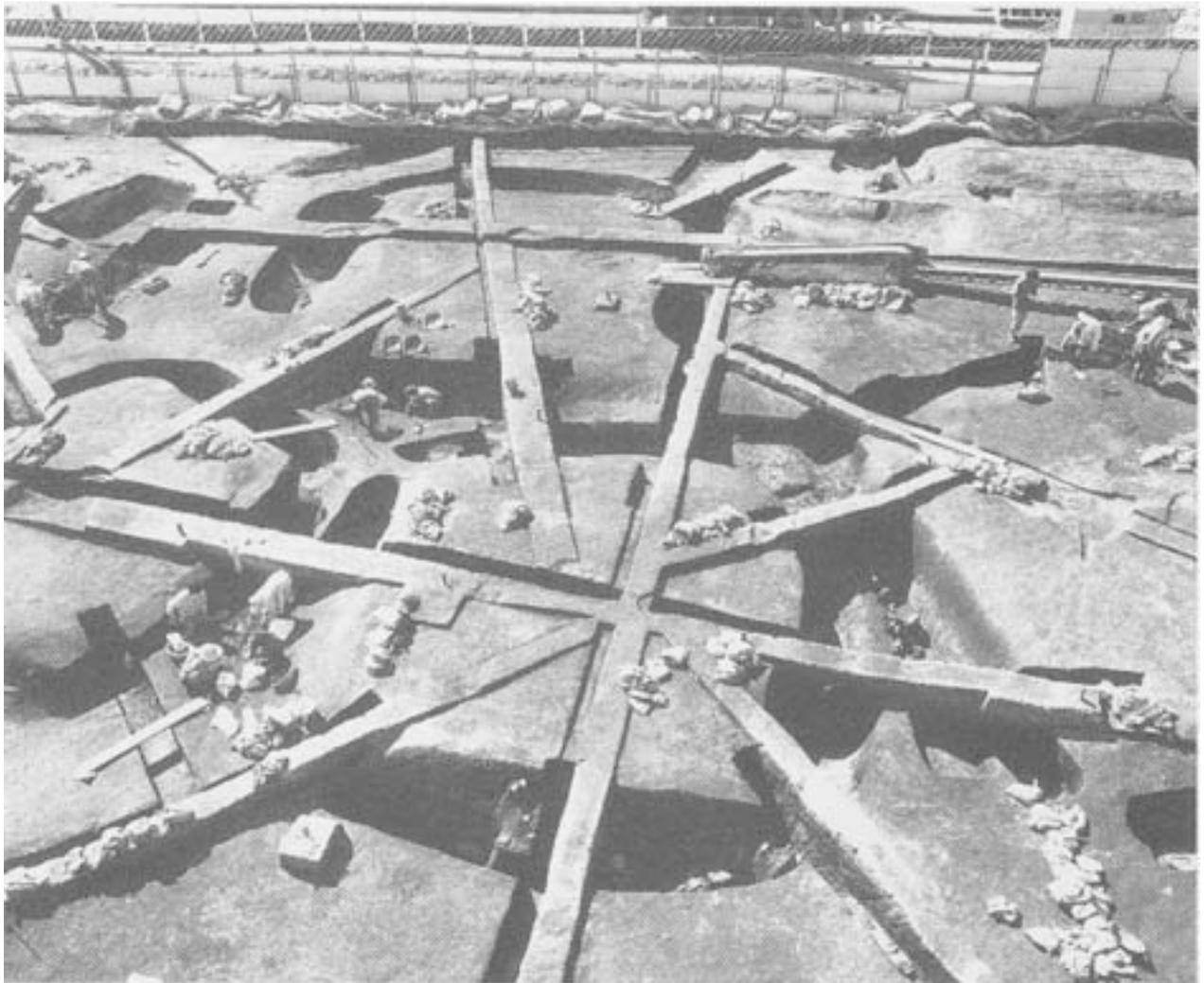


埋蔵文化財 愛知



no.44



朝日遺跡

朝日遺跡は東海地域の弥生時代を代表する遺跡として著名であるが、今回の発掘調査においては新たに弥生時代全般にわたる遺構・遺物が発見できた。弥生時代後期(山中式)の方形周溝墓(写真)は非常に良好に保存されており、周溝からは多量の土器なども見つかった。(関連資料 ・ 頁)

ゆいおけ 結桶

現在私たちが一般に「桶・樽」と呼んでいる容器は、短冊形の細長い板を円筒形に並べ、その外側をタガで締めて結び合わせた結物を指している。この結物は11世紀後半に九州で初めて出現しているが、これ以前の記録に見られる「芋笥(オケ)」は、薄板を曲げて円筒形に綴じ合わせた曲物桶を指しており、現在の「桶・樽」とは異なるものである。そこで曲物桶と区別するために、結物の桶・樽のことを「結桶・結樽」と呼ぶ。結桶と結樽の違いは、結桶が蓋板をはめ込まず口が開いた容器であるのに対して、結樽は蓋板をはめた密封容器である。密封された結樽には側板が蓋板に注ぎ口の孔を持っており、栓が差し込まれる。また、容器ではないが、遺跡から多数出土している井戸結桶は、土砂の崩落を防ぐために作られた底板も蓋板も持たない円筒形の製品のことをいう。

日本における結物の歴史を考古学的に把握するためには、大きく3期に分けて考えるとよいだろう。まず、12世紀から14世紀までの時期では、博多遺跡群や太宰府跡などの北部九州で井戸結桶として使用された事例が多数存在しており、北部九州以外の地域での事例はほとんど認められていない。古い結桶の出土分布地域が博多などに偏在していることから、大陸から結物が輸入された可能性が指摘されている。なお、愛知県内においても、この時期の結桶の確実な出土事例は皆無である。

次の15世紀から17世紀前半までの時期は、全国各地の特定地域や遺跡で、特定の用途に使用される形で結物が普及する段階である。最も多く認められる使用法

は、井戸側として用いられた井戸結桶である。この他に埋葬施設としての早桶、水溜などの埋設結桶、口径が30cm前後で器高が20cm前後の小型容器などがある。愛知県内においては、濃尾平野の沖積地に15世紀後半から井戸結桶が急激に現れる。特に、清須城下町における16世紀前後の井戸結桶の出土量の多さは、調査面積などの諸条件を考慮しなければならないものの、全国的にみても特異である(清洲城下町遺跡で102基123点、朝日西遺跡で14基20点、廻間遺跡で3基4点が確認されている)。

最後の17世紀から19世紀までの時期は、結桶・結樽が全国各地で様々な用途で使用されており、質量ともに結物の最盛期と評価できる段階である。遺跡から出土する事例としては、先に取り上げた井戸結桶、早桶、小型容器などの他に、結樽、大型容器、結桶柄杓などがある。特に、吉田城遺跡で出土したような結樽の出現と普及は、近世醸造業や運送業などの発展に大きく寄与したと考えられる。また、小型の木製容器における結物の占める割合は、曲物桶と入れ替わる形で増している。このことは、清洲城下町遺跡における曲物桶と結桶の比率を破片数で求めると、16世紀代では5:1の割合であったのが、19世紀代には1:1の割合となっていることから伺われよう。

このようにみると、結物が本格的に国内で製作されたのは15世紀以降と推測される。結物の出現と普及との間に約300年の時間差があるのは、その間の結桶の需要が少なかったことに加え、15世紀に出現したといわれる台匏や縦引鋸の存在が関わっていると思われる。つまり、結物作製の技術的なポイントの一つに側板側面を平滑に仕上げることがあげられる

が、台匏はこれを容易にしている。また、長い板材を大量に製材するために縦引鋸は大きな役割を果たしたであろう。こうした技術的な問題点を、大工道具の技術革新によって克服した上に、15世紀代の結物の普及が実現したのである。

さて、結物の技術は、それが導入されると容器として用いられるよりも、まず井戸側として使用される事例が多く認められるのが特徴である。その理由として、木製品自体が遺存しにくいことや、結桶の修理が容易であるため遺物として残りにくいことが考えられるが、結桶が曲物桶に比べて器高が高く丈夫な筒を作り易いといった特性もあげられる。沖積低地の井戸には土砂の崩落を防ぐ井戸側が必要であり、これを作るために様々な工夫が施されてきた。中世では方形木組と曲物桶が用いられたが、曲物桶は側板の板幅が高さになることから、深く井戸を掘るためには幅広い良好な板材が必要である。一方、結桶は板の長さが井戸側の高さになることから、簡単に深い井戸が掘削できるのである。清須城下町のような沖積地に人口密度の高い集落が成立する背景には、悪条件下でも井戸を掘って水を確保できるような、結物技術が少なからず影響したのではないかと思われる。

このように、結物は近世社会の成立・成熟に欠かせない存在であり、その実態を考古学的にも解明することが近世考古学の一つの課題であるといえよう。

参考文献

桶樽研究会編 1994 『日本および諸外国における桶・樽の歴史的総合研究』生活史研究所

(埋文セ 鈴木正貴)

結桶

遺跡名	所在地	内容	時期	井戸数
名古屋城三の丸遺跡	名古屋市中区	井戸	16世紀	1基
天白元屋敷遺跡	名古屋市守山区	井戸	15～16世紀	1基
大毛池田遺跡	一宮市大字大毛	井戸	15～16世紀	2基
西上免遺跡	尾西市開明町	井戸	15～16世紀	2基
尾張国府跡	稲沢市松下町	井戸	14～15世紀?	2基
下津城跡	稲沢市下津町	井戸	(中世)	1基
瀬戸川城跡	尾張旭市瀬戸川町	井戸	17世紀?	1基
岩倉城遺跡	岩倉市下本町	井戸	15～16世紀	3基
廻間遺跡	西春日井郡清洲町	井戸	17世紀	3基
清洲城下町遺跡	西春日井郡清洲町	井戸	15～19世紀	137基
朝日西遺跡	西春日井郡清洲町	井戸	16～19世紀	18基
志貴野遺跡	西尾市志貴野町	井戸	(近世)	1基
岡島遺跡	西尾市岡島町	井戸	(近世～)	4基
吉田城遺跡	豊橋市八町通	井戸	19世紀	1基

遺跡名	所在地	内容	時期	破片数
名古屋城三の丸遺跡	名古屋市中区	容器	17～18世紀	1点
古渡城遺跡	名古屋市中区	容器	18～19世紀	1点
中宮遺跡	小牧市小針	容器	(近世)	4点
岩倉城遺跡	岩倉市下本町	容器	15～16世紀	3点
沓掛城跡	豊明市沓掛町	容器	15～16世紀	37点
清洲城下町遺跡	西春日井郡清洲町	容器	15～16世紀	6点
朝日西遺跡	西春日井郡清洲町	容器	17世紀末	7点
外町遺跡	西春日井郡新川町	容器	(近世)	1点
室遺跡	西尾市室町	容器	(近世)	3点
吉田城遺跡	豊橋市八町通	容器	16～19世紀	3点



清洲城下町遺跡出土井戸結桶



結桶の分布

遺跡調査速報

ひがししんきみち
東新規道遺跡

尾西市開明

愛知県埋蔵文化財センター

東海北陸自動車道建設の事前調査として、平成7年8月から平成8年1月にかけて調査を行った。調査面積は7294㎡で、南北に細長い調査区を設定した。近辺の現況は標高約7mの水田と畑である。調査の結果、4世紀末を中心とする古墳時代の遺構と13・14世紀の中世の遺構とを検出できた。調査区北部では古墳時代から中世にかけての北東から南西への方向性を持った8条の溝を検出し、その内の4条が古墳時代に所属するものである。一方、調査区南部では小区画水田状の深さ数センチの浅い落ち込みを7ヶ所検出し、S字甕・管玉1点などが出土している。こうした落ち込み状の区画は、北部の溝群と平行する位置関係にあり、水田や畠など何らかの耕作地と想定でき、古墳時代の遺構群については、東方の一宮市今伊勢町のでんやま古墳・野見神社古墳などとの関連を考えたい。その他に調査区全体では、13・14世紀の土坑十数基を検出している。その中で調査区北西部の土坑は、出土遺物から平安時代まで遡ると考えられる。いずれにしるこうした土坑群が展開する時期には、現在の開明集落が所在する微高地に集落の中心部が存在したと推測できる。

(埋文セ 今西康二)



古墳時代前期の溝



S字甕出土状況(溝内)

まびきよこて
馬引横手遺跡

尾西市籠屋3・4丁目

愛知県埋蔵文化財センター

西尾張中央道(県道14号)と起街道が交差する籠屋周辺に展開する馬引横手遺跡は、東海北陸自動車道建設の事前調査として、平成7年9月から調査を開始した。なお同地区の発掘調査は来年度も継続調査する予定である。遺跡の現状は市街地であるが、2次的な堆積層の存在があり遺構面・包含層は比較的良好に保存されている。大きく2つの遺構検出面が確認でき、第1次検出面は標高5mで、14～15世紀にかけての遺構群が複雑に展開する。井戸・溝・土坑がおおむね短冊形地割状に展開し、多量の土器・陶器(東濃型・古瀬戸後期)の出土が認められる。その下層には第2遺構検出面(標高4.4m)があり、12世紀を中心とする井戸・溝が点在し、それに重複するように古墳時代中期の溝なども確認できている。また大きな谷状の地形からは縄文晩期の土器なども散見できる。

今回の調査範囲は小規模であるため遺跡の性格などは明らかにできないものの、上層にあたる室町時代の遺構群の分布は当地域の中世史を考える上で興味深い資料となろう。さらに鎌倉時代前期に洪水性の堆積層が存在する点や縄文時代晩期に埋没する谷地形が認められる点など遺跡立地の問題を考える上で重要な手がかりを得た。

(埋文セ 赤塚次郎)



室町時代の遺構

あさひ
朝日遺跡

西春日井郡清洲町

愛知県埋蔵文化財センター

朝日遺跡は清洲町を中心として春日町、新川町、名古屋市西区にまたがる遺跡で、濃尾平野を南流する五条川左岸の東西に伸びる微高地上に立地している。これまで昭和44年から平成元年にかけて愛知県教育委員会、(財)愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査部、(財)愛知県埋蔵文化財センターによって約90000㎡が発掘調査されており、東海地方屈指の弥生時代の集落遺跡であることが判明している。

今回の発掘調査は、新資料館建設に伴うもので、愛知県教育委員会の委託事業として実施している。調査区は、国指定史跡貝殻山貝塚に南接する地点であり、遺跡の南西端に位置する。

これまでの調査の結果、今回の調査区では、弥生時代全般にわたる遺構・遺物の他に、古墳時代中期の古墳、鎌倉～戦国時代の方形土坑などが確認されている。ここでは弥生時代の様相を記述する。

弥生時代の遺構・遺物は豊富で複雑に錯綜しており、調査が完了していない現状では不明瞭な部分が多いが、遺構はおおよそ5期(前期から中期初頭、中期前葉、中期中葉、中期後葉、後期)に分けて考えることができる。

弥生時代前期から中期初頭の時期では、調査区北部で東西方向に走る幅約3mの溝が2条検出された。溝からは遠賀川系土器や朝日式の土器などが出土する他に、溝内には部分的に貝層が堆積しており、貝塚状に盛り上がり残存している部分も認められる。この溝は、その北に展開する集落を囲む二重環濠と思われる。

中期前葉および中期中葉になると、集落を区画する溝が調査区

の中央部まで南下する。溝は切り合いながら2条走っており、溝内には貝層や朝日式から貝田町式の土器片が集積した部分が存在する。溝の外側には、方形周溝墓が展開したようである。

中期後葉では、集落を囲む溝は認められなくなり、調査区南半部で四隅に陸橋部を持つタイプを中心とした方形周溝墓が展開する。方形周溝墓の墳丘は良好に残存しており、南西端の方形周溝墓の墳丘上では高蔵式の土器棺が4基検出された。

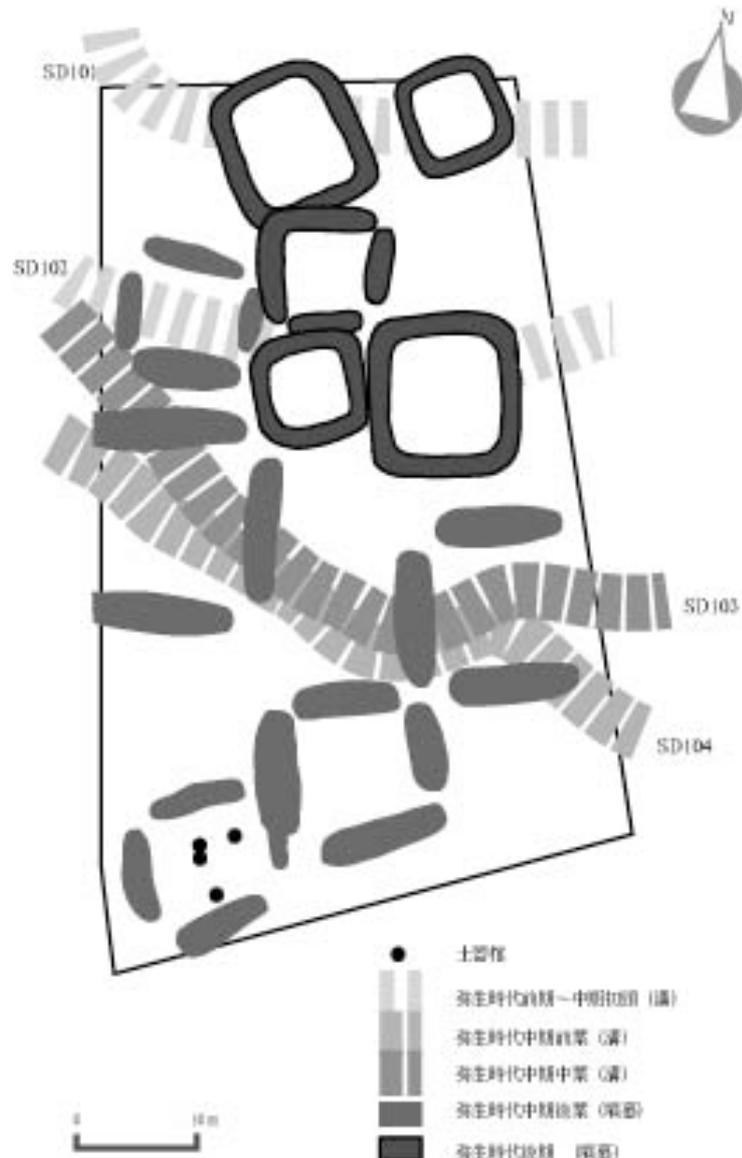
弥生時代後期になると、中期後葉段階には造墓されなかった調査区北部に方形周溝墓が設定され

るようになる。周溝内には山中式の供献土器が多数出土しており、周溝は部分的に陸橋部を持っている。

今回の調査区は微高地の縁辺部に相当しており、遺跡の状況は時期毎に居住域と墓域との境界が変動する形になっている。

朝日遺跡はこれまで弥生時代中期以降の環濠集落と評価されてきたが、今回の調査の結果、新たに弥生時代前期においても環濠集落を形成していたことが判明した。貝殻山貝塚などを含めた前期の朝日遺跡の様相を考え直す貴重なデータを得たといえよう。

(埋文セ 鈴木正貴)



遺跡調査速報

しんまち

新町遺跡

小牧市堀の内

小牧市教育委員会

土師器皿等出土状況

本遺跡は史跡小牧山の南に位置し、織田信長が小牧山居城時(永禄6~10年)に築いた城下町の存在が推定される範囲内に当る。調査は小牧中学校の移転に伴うもので、昨年度行なった試掘調査で城下町期の遺構が検出され、この結果を受けて今年度に本調査を行なうこととなった。5~10月に第1次調査を終え、12月からは第2次調査に入っている。

第1次調査では、城下町期の溝、土坑、井戸、ピット等、時期不明であるが城下町期以前の土坑が検出された。建物跡



遺構検出状況



こそ検出されなかった

が、貯水目的のためか底面が部分的に深く掘り込まれた溝や土師器の鍋、釜、皿(直径5cm程の手づくね製品)が大量に投棄された土坑など、特殊な機能が考えられる遺構が検出された。出土品は鍋、釜、皿等の土師器が圧倒的に多く、他に天目茶碗、丸皿、すり鉢等の施釉陶器(すり鉢のみ瀬戸大窯編年の大窯期のものがみられるが、大部分は大窯期に属する)白瓷系陶器、土鈴、縄文時代の石鏃、打製石斧がある。

(小牧市教育委員会 坪井裕司)

みなみやまはた

南山畑遺跡

豊田市広川町8丁目

豊田市教育委員会

土器棺墓

遺跡は北に向かって舌状に張り出す台地(矢作川上位段丘面)上に位置する。弥生後期を中心とする大集落、高橋遺跡の南端は、加茂川によって開析された谷底平野を隔てて北へ500m、矢作川は西へ1kmの距離である。

区画整理事業にさきがけ、昨年3月に行った試掘調査では、8.6×8mの大型住居などが見つかり、面積およそ8000㎡に及ぶ弥生後期の集落であることが判明した。全体を4地区に分割、11月から調査を開始し、今年2月後半まで



石組遺構

およそ2200㎡の調査を完了している。

主な遺構としては、弥生初頭(櫻王期?)の土器棺墓2基、同後期(欠山期)の竅穴住居8軒、性格不明の石組遺構2基、近世~明治期の火葬墓・火葬施設16基、区画溝多数などが検出された。

欠山期の住居は切り合いもなく、短期間のみ営まれた集落と考えられる。住居の平面形は長方形と方形が相半ばしている。うち、1軒からは鑄造の柳葉式鉄鏃が出土しており、注目される。また、石組遺構のうち1基は最末期の古墳石室である可能性を持つが、鉄釘が10点余り出土したのみで、時期比定が困難であった。

(豊田市教育委員会 森 泰通)



よしご 吉胡遺跡

渥美郡田原町 田原町教育委員会

吉胡遺跡は、縄文時代の多数の人骨を出土したことで有名な国指定史跡「吉胡貝塚」の西側の台地に位置している。

土地区画整理事業の実施に先立ち、平成5年に行った試掘により、遺物、溝、土坑が確認されている。

今回調査の結果、弥生時代後半と平安時代末期から鎌倉時代中期の2時期の複合した遺跡であることが判明した。弥生時代後半の竪穴住居跡が2軒検出されるとともに、壺形土器など若干の遺物が出土した。ま



調査区全景

た、平安時代末期から鎌倉時代中期にかけての遺構からは、溝、柱穴、竈跡、集石土壌など数多くが検出された。特に、こぶし大の礫とともに土器片や瓦等が出土した溝は、洪水などで一気に埋まったことが判明した。この時代の人々の生活の場所が明らかになっている例は県下でも少なく、東三河でも初の検出といえ、今後の研究に貴重な資料を提供した。

鎌倉時代の土壌



(田原町教育委員会 石部初夫)

事務所訪問

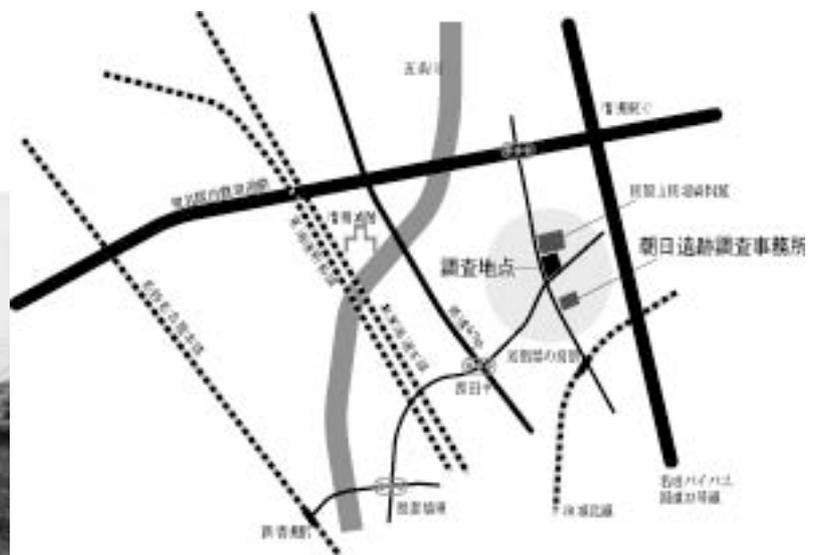
朝日遺跡調査事務所

愛知県埋蔵文化財センター 西春日井郡清洲町
TEL 052-401-2726

愛知県清洲貝殻山貝塚資料館に近接する発掘調査現場の事務所として平成7年10月に開所。朝日遺跡の発掘調査が本年度10月から来年度秋頃まで継続的に実施する予定にあわせて機能する。愛知県を代表する弥生時代の拠点集落である朝日遺跡、その調査からまた新たな発見が報告されることであろう。



事務所遠景



資料紹介

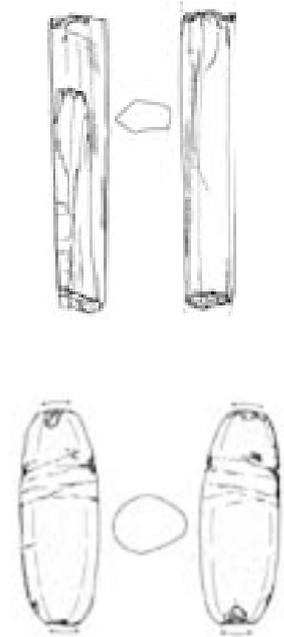
馬引横手遺跡出土 石刀と棒状石器

馬引横手遺跡Bb区のほぼ中央を東西に横切るSD 31は、古墳時代前期の遺物が大量に出土している溝であるが、今回紹介するのは、この溝に混入していた縄文時代晩期に属すると考えられる2点の石器である。

まず石刀(右図上)だが、胴部のみ出土であるが残存長15.8cm、幅3.0cm、厚さ1.2cmで、断面は楔形をなす片刃である。石質は頁岩である。残念ながら頭部は欠損しておりその全体像を知ることができないのだが、横位に1~2本の帯状沈線を数段廻らし、その間に斜線や斜格子文などを配する文様を刻んだ頭部を持つ遺物が、縄文時代晩期を

中心に東海・関西地方に広がっていることが知られ、近くの遺跡では一宮市馬見塚遺跡でも1点出土している。(『なすな原遺跡-No.1地区調査』なすな原遺跡調査会、1984)

棒状石器(右図下)は、長さ12.4cm、幅4.5cm、厚さ3.4cmで、上下両端に敲打痕が認められる。いわゆる敲石とよばれるものであるが、細長い形状が特徴的である。また、両側に刻みを持ち、ひも状のものを巻いて縛ったかのように胴部を廻る擦痕が表面に認められる。使用法を推測する興味深い資料である。



(1/4)

(埋文セ 伊藤太佳彦)

研修会

研修会 ・ 研修会

主催 愛知県教育委員会
愛知県埋蔵文化財センター

研修会 (分析用サンプル採取の実地)



研修会 (講義)



平成7年度、市町村における埋蔵文化財保護及び発掘調査体制の整備・充実を図るため、埋蔵文化財担当職員を対象とした、専門的知識及び技術習得のための研修会を行った。

研修会 (平成7年10月19日・10月20日)

「補助金制度とその活用」愛知県教育委員会文化財課主査 赤羽一郎
「出土品の収蔵と法的手続きについて」愛知県教育委員会文化財課主事 磯谷和明
「埋蔵文化財調査の実際」愛知県埋蔵文化財センター調査課長 中川真文
「遺物整理の実際」愛知県埋蔵文化財センター課長補佐 高橋信明
「文化財保護の精神」愛知県埋蔵文化財調査センター所長 明壁正毅
「朝日遺跡発掘調査の実際」愛知県埋蔵文化財センター課長補佐 福岡晃彦
「自然科学分析の実際」愛知県埋蔵文化財センター調査研究員 服部俊之・鬼頭 剛
研修会 (平成7年11月14日・11月15日)

「朝日遺跡について」愛知県埋蔵文化財センター調査研究員 石黒立人
「青森県三内丸山遺跡について」青森県教育委員会三内丸山遺跡対策室総括主査 岡田康博
「縄文時代の食生活」名古屋大学文学部教授 渡辺 誠
「弥生時代の集落」福岡大学文学部助教授 武末純一
朝日遺跡調査現場見学
愛知県清洲貝殻山貝塚資料館見学「朝日遺跡への招待」

埋蔵文化財愛知 no.44

発行 平成8年3月25日
編集 財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
〒498 愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田字野方 802-24
TEL 0567-67-4161~4163 FAX 0567-67-3054
印刷 クイックス